

○平成 30 年度移住体験ツアー事業及び 2019 年度移住定住・結婚支援事業について

◆当初のねらい

1. 趣旨

地方創生推進交付金を活用し、首都圏在住在勤の田舎暮らし志向の若年層を対象に実施。

2. 手法

事業委託先の持つ豊富な個人データを活用し、本市の特色ある業種（例 農業、福祉、新規参入など）就職希望者を募集し、参加者と市内事業者とのマッチングを図る。

3. 参加人数

25 人程度

4. その他

空き家バンクや家賃補助など、移住者支援制度整備のきっかけにする。

◆事前調整

業種の絞り込みについては先進市町村、関係機関、市内事業者等との聞き取り調査等を行った結果、本市においても従事者が不足している「保育所及び介護老人福祉施設等の福祉の仕事」をテーマにすることとした。

当初は「介護や保育の資格持っている人」を限定に実施したかったが、介護の仕事は働きながらも資格を取れること、全国的に不足している保育士は家賃補助や給与補助等、自治体が競って補助金を交付する中、資格取得者に限定しては募集が難しい。等の理由から「保育や介護等福祉の仕事への就職を希望する 30 歳代までの人」とハードルを下げて実施することとした。

◆委託業者選定

旅行代理店大手 2 社によるプロポーザル審査の結果、JTB+ディップ（バイトルの会社）に決定した。プロポーザルの際の説明によれば、『ディップに登録している膨大な個人情報を使って、絞り込んで募集を行うので、田舎暮らし志向で、福祉の仕事に就職を希望する就職氷河期時世代の非正規雇用者等の若い人を定員（25 人）以上集めることができる。』とのことであった。

◆参加者募集—結果

ディップが、登録者に向かってツアー参加者の募集を開始したが、人が集まらず、途中から年齢制限や居住地などの条件を緩めたが、最終的には 14 人の応募に留まった（当日参加者は 12 人）。

◆移住定住ツアーの実施（2/5（火）～2/6（水））

1 日目 雪入ふれあい里公園散策⇒レンコン掘り取り見学⇒レンコン料理教室&レン

コン尽くし昼食⇒霞ヶ浦湖畔サイクリング⇒歩崎地内散策（ガイド付き）⇒
保育所&介護施設の方を招いての夕食・懇談会（保育所・幼稚園 4 人、介護
施設 3 人の参加協力）⇒宿泊（農村環境改善センター）

2 日目 施設見学&施設職員による説明（保育園 2 か所、介護福祉施設 1 か所）
⇒地元料理店での昼食⇒移住勉強会（市民協働課職員の説明による本市の PR
⇒市内直売所で買い物

※バスによる移動の間も通過している地域や施設について車中説明をした。

◆検証、課題

・ 想定外の参加人数

本市の対外的魅力度の評価と人集めの難しさを実感。募集方法の再検討。

・ 想定外の参加者

高校卒業生、大学生など、想定より若い人が多かったため、今後はこちらか
らメールや郵便などで情報発信をするなど、時間をかけて関係を構築していく。

・ 受け入れ体制の整備

本市において、今回のような IJ ターンを目指したツアーを実施するには受入
れのための制度やシステム、組織、施設などの整備が必要。ただし、これらを
整備し、本気で取り組んでいくには、予算も手間も時間もかかるため、まずは
市内に住む若い世代を転出させず、定住させるための施策に優先して取り組み
ながら、多くの方の意見を取り入れて、今後の移住に関する取り組みの準備、
検討を進めていく。

◆2019 年度の取り組み

移住定住・結婚支援事業

（1）市内に住む若い世代に定住させるための取り組み

①婚活サポートセンターの開設及び運営

②結婚支援等に関する補助制度

- ・ カップリング記念日プレゼントの贈呈
- ・ 成婚定住奨励金 & 家賃補助
- ・ 県出会いサポートセンター登録補助金

（2）市外からの移住促進に関する取り組み

①移住者への支援制度

- ・ 地方創生移住支援金
- ・ 移住支援事業費補助金

②移住希望者に対しての本市の PR

- ・ 移住希望者及び検討者向けの本市紹介冊子の作成
- ・ 移住希望者及び検討者への移住通信事業

③今後の移住に関する取り組みの検討